

1 自己評価及び外部評価結果

(グループホーム沖郷1号館)

事業所番号	0691900120		
法人名	株式会社カインド・ホーム		
事業所名	グループホーム沖郷		
所在地	南陽市若狭郷屋797-3		
自己評価作成日	令和 4 年 11 月 1 日	開設年月日	平成 29 年 6 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念でもある「やさしく・しんせつ・ていねいに」介護サービスの提供

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 4 年 12 月 6 日	評価結果決定日	令和 4 年 12 月 26 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「やさしく・しんせつ・ていねいに」を心に留め、アットホームな雰囲気の中職員は笑顔で接し利用者を深く理解出来るように努め、思いや不安など何でも話せるような信頼関係を大切にしながら関わっています。コロナ禍の影響で行動が制限されていますが、レクリエーションや好きなこと・得意なことなど楽しみ事に代えて笑顔でその人らしく過ごしています。職員はそれぞれの受けたい研修を動画で毎月受講し、ケアを振り返り手本となれるようスキルアップに努めています。また、より良い施設にするために今年度介護ロボット(ベッドセンサー)を設置し、呼吸確認や転倒防止などに繋げ家族からは安心の声が聞かれています。利用者・家族等との信頼関係を大切にさらなる質向上を目指し取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人ひとりが理念に日々近づける様に努力している。	一人ひとりの思いを理解し言葉がけに工夫しながら笑顔で関わり、好きな事や得意な事をしてもらい、できるだけこれまでの生活が継続できるよう支援している。毎月の会議で理念を振り返りチームワークを大切に実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やイベントは昨年に続き中止となっており、交流が中々出来ていない状況であるが運営推進会議の中で地域代表メンバーと情報交換会を実施している。	コロナ禍の影響で交流も困難な状況であるが、運営推進会議の中で地域代表者から情報を得たり、避難訓練時は一緒に参加してもらっている。開設して6年となり地域からの認知度もあり理解を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議、身体拘束委員会を開催しそのつど報告、質疑応答している。避難訓練を行うときは協力して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に対面で開催しメンバーから地域の情報を得る大事な会議となっている。今年度設置した設備を見学してもらい、8月には避難訓練合わせて実施し協力を得ている。	会議は身体拘束委員会を含め各種委員会を2ヶ月毎に対面で開催し、生活や活動状況の報告を行っている。今年度はベッドセンサーを設置し、家族等からは良い所に入られてよかったと安心の声が聞かれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者から運営推進会議に出席してもらい情報交換し、疑問に思うことなどはメール等で連絡を取り合っている。ワクチン接種の協力を得てスケジュールを決めている。	市担当者には運営推進会議に出席してもらい実情や取組みを伝え、困難事例などの相談事でアドバイスをもらい日頃から良い関係を築いている。また、来年には県の補助を受け感染症対策としてガラス窓や扉・アコーディオンカーテンの設置も予定されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	運営推進会議メンバーに身体拘束委員会を兼ねてもらい職員共に話し合い拘束の内容と弊害を全員で共有している。不安な表情のときに寄り添って声掛けしゆったり落ち着いた抑圧のない暮らしを実践している。	身体拘束適正化のための指針を構築し、2ヶ月毎に委員会を行い、職員会議で共有を図り理解している。不適切な言葉がけなどが見られた場合は職員同士で注意し合える環境が出来ている。帰宅欲求の方には好きな事をしてもらったり、話題をかえるなど工夫しながら不安なく過ごせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に1度の身体拘束委員会を開催している。全員が身体拘束の知識を持ち拘束が無いケアを行っている。利用者様の言葉を傾聴し寄り添った声掛け支援を行い、自由にゆっくと生活が送れるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当するケースなく、必要があれば家族への説明も考えている。各関係者に情報提供を出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に解約事由等の説明を行っている。やむを得ない状況で入院となった場合にも家族の不安に答え医療との連携を図りながら対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、手紙を家族に送り日常生活の様子が伝わり易いように写真を載せたりして対応している。面会などは窓越しにて実施し、その他意見、要望に応えられるようにしている。	生活の様子は毎月居室担当者が本人のスナップ写真やコメントを添えて報告し、家族等からは感謝の声があり職員の糧となっている。家族には「何かありましたらいつでも連絡下さい」と伝え信頼関係の構築に努めている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、各ユニット会議を行い、意見や提案をする機会を設けている。その都度個別に考えを聞き全員で試行している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況は管理者通して毎日本社に報告し把握している。職員の家庭環境や事情を配慮し勤務形態や希望休の相談に応じ働きやすい環境にしている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修の殆どがオンラインとなっているが数少ない対面での研修となっている為、参加した時は情報交換をしている。事前検討会や動画研修を行いサービスの向上を図っている。	毎月事業所で様々な動画での研修や実技研修を行い、その後小テストを個別で行っている。施設長からアドバイスを受けてスキルアップを図り、サービスに活かしている。また年間の個人目標を立て上司からの声かけ等もあり、手本となれる職員を目指して取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍により外部研修はオンラインが殆どとなっているが研修を通して情報交換をしている。	職員は実践者研修に参加し、対面とオンラインでの交流を行っている。また、近隣の入所施設の代表者が来訪し、当事業所から最新の取り組みなどを伝えたり情報交換しサービスの質向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安な事や困っていることを傾聴し、安心して生活が出来るように配慮している。各担当を決め話し易い環境作りを行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所まえに本人の情報をなるべく多く集め現在の問題点や生活課題を把握し面談を行い家族の不安、要望を聞ける機会を作り関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の生活習慣を継続出来るようにニーズを把握し必要に応じて他のサービス利用が出来るように職員間での情報共有に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人出来る事・出来そうな事を一緒に行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と密に情報交換し、良好な関係性を築くようにしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、面会は窓越しにて行い、手紙等で交流している人もいる。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に過ごしながらか関係作りをする中で職員のが中に入りながらコミュニケーションを円滑に行えるようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・退所の際には面会に行ったり、家族からの不安や相談をいつでも受けられるように体制をとっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症や精神疾患による暴力的な行為がある時は何故なのか、本人の思いはどうなのか話し合う。自分の思いをなかなか伝えられない利用者様の日々の変化を理解し利用者様に寄り添うよう努力している。	入居前の情報や日常生活での会話の中から思いを聞き取り把握している。笑顔や満足した様子が見られない場合は、気づきシートで共有し毎月の会議で話し合い統一したケアを行い、満足に繋げられるよう取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報収集や日々の記録を基にこれまでの暮らしの把握に努めている。また気になる事はその都度家族に確認し情報は職員間で共有しケアに努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や排泄チェック表、水分摂取表等を毎日記録し日々の会話や言動から精神状態の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリングを行っている。課題が出た場合は、担当・ケアマネ中心に意見交換をしている。	利用者の出来る事・好きな事をしてもらい「その人らしく生活する事」を大切にプランを作成している。毎月の職員会議で担当者を中心に話し合い、3ヶ月毎に観察を行い身体的な変化があった場合は家族等に相談して見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の様子を日々観察、記録に残し職員全体で共有し、現状把握に努めている。変化や課題がある場合は話し合いを随時行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療によるマッサージを活用して楽しむことが出来るように支援している。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の診察や往診をしている。受診報告書を作成し情報の共有をする。緊急時なども電話連絡を行い指示をもらう。	かかりつけ医受診は、家族等付き添いがあるがほとんど職員が付き添っており、また定期的な往診もある。家族には記録報告書を持参してもらい日頃の状態を伝えている。結果は申し送りノートで共有し、家族等には状況が変わった時に電話で報告し安心してもらっている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週1回勤務し利用者様の状況報告や相談を行い指示をもらう。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は面会や電話等で看護師、家族からの状況を聞くなどして把握に努めている。変化があれば主治医に指示を仰ぎ、紹介状等を書いていただき専門医を受診している。退院時も退院カンファレンスに参加し情報の共有に努めている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期にあたっては契約時に事業所で出来る支援について説明し承諾を得ている。また状況の変化に基づき主治医と連携して家族等と話し合いを持ち今後の方針を共有しながら支援している。	利用開始時に事業所の重度化対応指針を説明し、利用者家族等の理解を得ている。重度化してきた時には、医師・家族等と話し合いを重ね、利用者にとって良い方法が選択出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命救急講習を受けており、定期的に勉強会を行い急変時や事故発生に備えている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の代表メンバー協力を得ながら避難訓練を実施し利用者様参加の元に火事プレ、通報、避難誘導や水消火器による消火訓練を行っている。	訓練は防災会社の立会いと運営推進会議の後にメンバーに参加してもらい、利用者の見守りの協力を得て実施している。通報・避難誘導訓練の後、水消火器を使い地域メンバーと職員が消火訓練を行っている。また抜き打ちの招集訓練も行っており、課題や問題点もある事を認識しており、解決に向け努力している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の理解と信頼関係を深める事が大切であると捉え節度のある接遇に心掛けている。職員の関わりで気になる場面があった時、管理者がその場で助言し質の向上を図っている。	利用者の個性を尊重した言葉の使い方やかけ方、また相性も考えて席順にも配慮している。内部研修で接遇を学び尊厳を守った介護を行い、信頼を深め生き生きとした暮らしが出来るよう支援している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	何でも話していただける信頼関係づくりを心掛け本人の思いを大切にして、希望に添える様待つ姿勢を心掛ける。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりにの生活ペースに合わせた支援を心掛けている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や本人の好みに合わせた服装や髪型ができるよう、選ぶことやオシャレができるように努めている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の要望を取り入れながら冷蔵庫を見ながら一緒に献立を考えたり食事レク等もおこない楽しんでいただいている。	10月より朝夕は食材配送サービスに委託する事になり、利用者との関わりが多くなっている。昼食は利用者の希望を取り入れ、喜んでもらえるメニューを一緒に作り、一人ひとりに合った形態で提供し食事を楽しんでいる。今は外食などままならない状況にあり、弁当を作りお弁当開きをするなど工夫を凝らしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った形状、量、物の提供をしている。また3食記録し体調面の様子観察行っている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがい等の口腔ケアの実施の声掛け、支援を行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録表使用。声掛け必要な方には誘導し、失禁多く見られる方には回数や時間を見て検討したりしている。夜間オムツ対応のかたも巡視時の状況見ながら誘導している。	排泄記録表を活用して、利用者それぞれの習慣を見て羞恥心に配慮し、そっと誘いトイレ誘導している。自立している方もいるがトイレでの排泄が出来るだけ長く続けられるよう支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日2回の体操や食事面での水分摂取、食物繊維、乳製品の摂取などの面から工夫している。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	拒否のある方も週2回入浴していただけるよう、入浴剤を使用したり誘導などのタイミングを見ながら声掛けをしている。入浴中は普段聞けない話を聞けたりもする。	利用者に週2回の入浴を予定し声掛けしている。入浴時は肌の状態や傷・むくみが無いか等観察している。出来る所は自分でしてもらい出来ない所を手伝い、1対1の介助をしている。立位の難しい方にはリフト浴を使用してもらっている。風呂上りには整容し気持ちよく過ごしている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせた環境を整え、また体調面も考慮し臥床すすめたり状況に合わせて声掛けしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤管理を受けている。必要な方には介助を行い誤薬防止、服薬確認を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節事のイベントや花見、ドライブの実施夏祭りや敬老会芋煮会などの行事を実施しコロナ禍で外出は出来ないが施設内にて楽しめる。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの予防として外出は出来ていない。家族の協力にて元好物などを持参して、個別に楽しめる様子もみれる。	コロナ禍以前であれば、車で出かけたり散歩に出るなど、外に出る機会も多かったが、現在は情報を得ながらコロナ予防に徹している。受診の時、家族等と外出し車窓から街並みを眺めるなど心なごむ時間になっている。外出に代えておやつリクリエーション、季節の食材で食事リクリエーションを行い利用者の楽しみ事となっている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が金銭管理を行っている。日用品は欲しいものがあれば立替請求している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話器を設置しており家族と常に連絡が取れるようになっている。手紙が届いた際には返事を進めている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍において外出が出来ない為、季節によりホール内の装飾物を工夫した。利用者と一緒に折り紙等を使い作成し楽しまれた。温度管理こまめに行い過ごしやすい環境作りを行っている。	ホールには季節が分かるように利用者と一緒に飾りつけをしている。製作物作りでは、出来る作業をしてもらい無理強いしないよう気配りしている。食席など相性を見ながら決め居心地の良い場所になっている。利用者がマスク着用しているかを見守ると共に換気・加湿にも気を付けている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにてテレビを見たり、仲の良い利用者同士で談笑されている。居室でも好きな時間が持てるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅にて使い慣れた寝具、衣類など持ち込み居心地の良い居室作りをしている。夜間は定時巡視と共に体調にあわせたこまめな見守りで安心に繋がっている。</p>	<p>居室にはベッド・エアコン・クローゼットが備えてある。利用者が使いなれた物など自由に持ち込んで、自分らしい部屋を作っている。コールベルの利用や転倒リスクのある方には介護ロボットセンサーを使っており、動きが分かり安全に繋がっている。また夜間の見守りで安心した暮らしをしている。</p>	
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々のADLを確認し、自立支援を心掛け事故のないよう、安心安全な生活が送れるように支援している。</p>	/	/